

廉恥について

(社)日本 ITF テコンドー協会 理事長 岸玄二

おはようございます。

大会開催にあたり、ご尽力いただきました野村実行委員長、並びにスタッフの皆様、本当にありがとうございます。

今日も心のあり方についてのお話をさせていただきます。本日はテコンドー精神に則って廉恥についてのお話をさせていただきます。

皆さんはテコンドーの五つの精神をご存知でしょうか？

知らなくても問題はありません。逆に知っているだけでは何も意味はありません。

今日は廉恥についてのお話ですが、廉恥とは何ですか？と聞きますと多くの方は『恥を知ることです。』と答えると思います。しかしそれを知っていてあなたの何が変わるのでしょうか？何も変わらないのであれば意味はありません。

まず例を挙げてご説明いたします。

10年近く前になりますが、全国新人戦の会場でいつものように私は皆さんに開会式で挨拶をしていました。大きな大会ですので500人ほどの前でお話していたと思います。

終わってから岡本先生が私に『玄二さん、一部の女子が騒いでいますよ』と仰られます。

何の話かと思いましたが、ズボンのチャックが全開で話をしていたようです。(表現が不適切でしたら大変申し訳ありません。)

表では『おしやれ過ぎてごめんね』と取り繕いながらも大変恥ずかしい思いをいたしました。

また別の例ですが、数年前のテレビCMであるサッカー選手が『あなたにとって恥とは何でしょうか？』と質問されていて、それに対して『自分を大きくすることです。』と答えられました。これは威張ったり自分の実力以上の実力があるように見せようとする事かと思えます。

上記の2つの例が恥であることを前提に話を進めると、この例に共通していることは何でしょうか？

それは自分のことを知らない、分かっていないということです。

ですので恥を知るとは『自分のことを知らないということを知る』と言うことです。

よく分からないと思いますのでもう少しかみ砕きますと『自分には自分の分かっていない悪い所がある、ということを知る』ということです。

そしてその悪いところについては相手がヒントを与えてくれます。

例えは人と関わっていると相手を不快にさせたり怒らせたりすることがあります。

その時に自分の悪いところに目が行かない方は『何怒ってるの?』『良く分からない』などと反応してそこで終了です。

しかし自分が分かっていない悪いところが自分にはあると思っている方は、相手を不快にさせてしまったことについて何が良くなかったのかを考えます。そして悪いところに気付く事が出来れば直すことができます。このように自分で自分を良くしていくことができます。

これは人間として大きな差となる部分です。廉恥というものを上記のように理解していただければと思います。

ここからは特に大人の方に向けてですが私たちの組織も以前と違い大きくなり、色々な選択肢を提供できるようになりました。それに伴い問題が起きることも増えてきます。ですので再発防止のためにルールや会則というものも整備されていきます。

これからも私はこの組織を発展させていきたいと思っております。つまりルールや会則は増える方向にあります。しかしながらルールが増えると人間がどうなっていくのかと言いますと皆さんに身近な例として私が本で読んで腑に落ちたお話でご説明いたします。

今人気の漫画でも描かれている時代の話ですが中国に秦という国がありまして中国を始めて統一します。しかしながら秦も20年ほどで滅びてしまいます。

その本の中にはその原因の一つとして法に重きを置いたことを挙げていました。法に重きを置いた結果として人が『法さえ守れば良い』という考えになり恥を知らなくなったとのことです。更には法の抜け道を探すものも現れ、国が乱れて行ったということです。

その続きとして次に起こる漢という国では基本的には法は3つのみだったとありました。その結果、人は恥を知り自らで自らを律するようになり国は長く治まったとのことです。

これからも私はこの組織を大きく発展させていきたいと思っています。その一方でルールは増えていきます。そういった流れの中でも『自分で気付いて自分で直していくこと』が当組織の基本であることを会員の皆様にご理解いただきたく思います。

今日は廉恥についてのお話でした。

ありがとうございました。

2024年8月4日 第23回愛知県テコンドー選手権大会にて